資料３

琉球泡盛製造のための長粒種米の生産に係る説明会
議事次第

（日　時：平成 31 年 1 月 27 日（日） 10:00～11:20
場　所：那覇第 2 地方合同庁舎 2 号館D・E会議室）

１　開会
２「泡盛テロワールプロジェクト」の立ち上げについて（宮腰大臣）
３　沖縄県産長粒種による泡盛試験醸造プロジェクトの状況報告
　① 沖縄酒類製造業の自立経営促進事業における沖縄県産長粒種米の取り組み
　② 国際農林水産業研究センター等における品種別の試験栽培、試験醸造計画
４　水田活用の直接支払交付金の概要について
５　泡盛原料用米生産のイメージ（収入試算）について
６　酒造会社と水稲生産者のマッチングについて
７　意見交換

【配布資料】
資料１　沖縄酒類製造業の自立経営促進事業における沖縄県産長粒種米の取り組み
資料２　国際農林水産研究センター等における品種別の試験栽培、試験醸造計画
資料３　水田活用の直接支払交付金の概要
資料４　泡盛原料用米生産のイメージ（収入試算）について
資料５　酒造会社と水稲生産者のマッチングの仕組みについて

琉球泡盛製造のための長粒種米の生産に係る説明会

出席者名簿

（敬称略）

国頭村	村長	宮城　久和
大宜味村	副村長	島袋　幸俊
名護市	副市長	金城　秀郎
恩納村	副村長	外間　毅
金武町	町長	仲間　一
伊平屋村	村長	伊礼　幸雄
伊是名村	村長	前田　政義
南城市	市長	瑞慶覧　長敏
久米島町	町長	大田　治雄
竹富町	町長	西大舛　髙旬
与那国町	町長	外間　守吉
うるま市経済部	部長	佐久川　篤
石垣市農林水産部	部長	山田　善博

沖縄県農業協同組合中央会	参事	嵩原　義信
沖縄県農業協同組合	代表理事専務	普天間　朝重
沖縄県農業協同組合農業事業本部	統括参事役	久高　成次
羽地水稲生産部会	部会長	川上　達也
伊平屋水稲生産部会	部会長	新垣　正順

沖縄県酒造組合	会長	佐久本　学（瑞泉酒造）
沖縄県酒造組合	副会長	奥間　尚登（金武酒造）
沖縄県酒造組合	副会長	高嶺　聡史（高嶺酒造所）
沖縄県酒造組合	専務理事	土屋　信賢

沖縄県酒造協同組合	理事長	大城　勤（忠孝酒造）
沖縄県酒造協同組合	専務理事	武田　智

（資）伊是名酒造所	代表者	仲田　輝仁
やんばる酒造（株）	代表取締役	池原　弘昭
（有）今帰仁酒造	代表取締役	大城　洋介
（株）龍泉酒造	営業課長	平良　義恒
ヘリオス酒造（株）	代表取締役	松田　亮
（資）恩納酒造所	代表社員	佐渡山　誠
（有）神村酒造	工場長	渡久地　洋平
（有）比嘉酒造	製造業務管理部	仲村　有人
新里酒造（株）	取締役	新里　建二
（株）石川酒造場	営業部　課長	照屋　清秀
瑞穂酒造（株）	代表取締役社長	玉那覇　美佐子
咲元酒造（株）	代表取締役社長	上地　栄一
久米仙酒造（株）	工場長	松村　和幸
上原酒造（株）	代表	上原　長榮
まさひろ酒造（株）	代表取締役会長	比嘉　昌晋
神谷酒造所	工場長	神谷　雅樹
（株）久米島の久米仙	代表取締役社長	島袋　正也
菊之露酒造（株）	代表取締役	下地　勝
（株）多良川	代表取締役社長	砂川　拓也
請福酒造（有）	代表取締役	漢那　憲隆
（有）八重泉酒造	代表取締役	座喜味　盛行
（名）崎元酒造所	代表代行	崎元　俊男

東京農業大学名誉教授		小泉　武夫
一般社団法人泡盛マイスター協会　会長		新垣　勝信
沖縄県商工労働部	産業雇用統括監	伊集　直哉
沖縄県農林水産部	部長	島尻　勝広
内閣府特命担当大臣（沖縄及び北方対策）		宮 腰　　光 寛
内閣府沖縄振興局	局長	北村　信
内閣府政策統括官総括担当	参事官	中嶋　護
内閣府沖縄振興局調査金融担当	参事官	村上　勝彦
内閣府沖縄振興局振興第二担当	参事官	八百屋　市男
沖縄総合事務局	局長	能登　靖
沖縄総合事務局	次長	仲程　由倫
沖縄総合事務局農林水産部	部長	田中　晋太郎
国税庁	長官官房審議官	吉井　浩
沖縄国税事務所	国税事務所長	脇本　利紀
農林水産省政策統括官	政策統括官	天羽　隆
農林水産省農林水産技術会議事務局	研究総務官	青山　豊久

資料１

1

沖縄酒類製造業の自立的経営促進事業
（内閣府沖縄振興局・沖縄総合事務局総務部）

- 事業内容：

  海外への販路開拓などに向けた先導的・モデル的な事業の実施を泡盛酒造所に委託し、その取組結果、ノウハウ等を公表することにより、泡盛製造業全体として海外展開の動きの促進を図る。

- 平成30年度予算額：33百万円

  （参考）平成31年度予算（案）112百万円

- 委託先：民間企業（泡盛酒造所等）

  平成30年度事業は、以下の２事業を委託。

  ① 「沖縄白酒」 中国輸出＆インバウンド展開事業（ビンコウHD、瑞穂酒造、南島酒販）

  ② **欧米での琉球泡盛のハードリカー分野における販路拡大に向けたブランド構築事業（Blueship沖縄、忠孝酒造、瑞泉酒造、久米島の久米仙）**

2

欧米での琉球泡盛のハードリカー分野における販路拡大に向けたブランド構築事業
（委託先：Blueship沖縄、忠孝酒造、瑞泉酒造、久米島の久米仙）

- 委託内容：
  - 新パッケージ開発（新ボトルデザインと初期型ボトルの開発）
  - 初期型ボトルによるプロモーション
  - インポーターの開拓（欧米圏への物流網の整備）
  - **長粒種米の県内生産及び泡盛の製造**

RYUKYU1429.com

- 主な事業：
  - H30.7～ボトル・ラベル制作
  - **H30.8～県産長粒種米栽培**
  - **H30.8～国産長粒種米泡盛製造**
  - H30.10 ～アイスランドでのプロモーション実施
  - **H30.11～県産長粒種米泡盛の製造**
  - H31.2～アイスランドで販売・プロモーション実施

※プロモーションで用いている泡盛は、県産長粒種米で製造されたものではない。

3

長粒種米の県内生産及び泡盛の製造

- 沖縄県農業研究センター石垣支所にて「夢十色」を栽培

  天候（台風の襲来等）を考慮して2回に分けて田植えを実施。

- 【圃場１】（20アール）

  田植え：8月1日実施

  収穫：11月5日

  収穫量：660Kg（精米後の収穫量）

- 【圃場２】（20アール）

  田植え：8月20日実施

  収穫：12月３日

  想定収穫量：480Kg（精米後の収穫量）

- 合計数量1,140kg/40アール（285kg/10アール）

- 【ジャポニカとの違い】
  - 発育状況：他のジャポニカとは異なり倒伏は見られず、草姿良し、風による籾のすれはあるが、収量に影響する可能性は低い
  - 収穫量の違い：同センターで植えているジャポニカと比較して多収が見込まれる

4

県産・県外産長粒種米による泡盛の製造

- 県産長粒種米（夢十色）
- 沖縄県農業研究センター石垣支所で栽培した、県産長粒種米を使用した泡盛の製造を実施

＜圃場１収穫分＞

蒸留所：忠孝酒造株式会社

収穫量：660Kg

数　量：約560L

蒸　留：平成30年12月12日開始

貯　蔵：平成31年１月4日開始

＜圃場２収穫分＞

蒸留所：株式会社多良川

収穫量：480Kg

数　量：約410L

蒸　留：平成31年1月開始予定

貯　蔵：平成31年2月開始予定

- 県外産長粒種米（ミズホチカラ）
- 県産長粒種米の栽培において天候によるリスク回避等のため熊本産長粒種米を購入し泡盛の製造を実施

購入量：100Kg（精米後3割減）

蒸留所：忠孝酒造株式会社

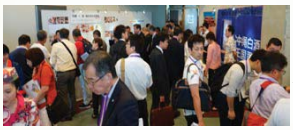
数　量：60L

蒸　留：平成30年8月6日開始

貯　蔵：平成30年8月末開始

（参考）県外産長粒種米により製造した泡盛のプロモーション

- 県外産長粒種米は、平成30年11月29日、30日に開催された「沖縄大交易会」において試飲を実施。
  - 沖縄大交易会（商談会）の併催事業として実施された「いいね！AWAMORI展」等において、県産長粒種米の栽培、泡盛製造の取組のPRのほか、国産長粒種米で仕込んだ泡盛の試飲を実施。



  - 評価：泡盛の香り・味わいがすごく良いなどのコメントが寄せられた。
- 平成31年2月28日にアイスランドで実施を予定している「第2回AWAMORI TASTE WARS」（泡盛カクテルコンペティション）に併せ、試飲を実施予定。
  - 現地のバーテンダーの方々に泡盛ベースの創作カクテルを開発してもらい、泡盛の認知度向上を図っていく取組としての「第2回AWAMORI TASTE WARS」において、国産米と外国産米の試飲会を通して違いの比較（風味等、イメージ）を行い、今後の県産長粒種米泡盛の海外戦略に反映させる。

資料２

品種別の試験栽培、試験醸造計画

○　琉球泡盛の輸出の拡大に向けて、原料米にこだわった個性豊かなブランド銘柄作りが重要。沖縄県産長粒種等を利用した琉球泡盛生産に向けて、沖縄県における原料米の試験栽培、試験醸造を実施。今後、原料米の栽培適性や泡盛の官能評価を含めた醸造適性を確認。

	収量等 ※収量はすべて 10a 当たり	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年
夢十色 （農研機構育成）	1 期作 ： 450kg 2 期作 ： 262kg （2007 年、2009 年、県農研）		・沖縄県農業研究センター石垣支所が試験栽培 ・忠孝酒造が試験醸造		
YTH183 （JIRCAS-IRRI 共同育成）	1期作 ： 630kg （2014 年、JIRCAS） 1 期作 ： 380kg 2 期作 ： 280kg （2018 年、JIRCAS）	・JIRCAS が試験栽培し、高嶺酒造所に 200kg 提供 ・高嶺酒造所が試験醸造	・JIRCAS が試験栽培(1 期作・2 期作)) ・高嶺酒造所が試験醸造 ・2017 年産を沖縄国税事務所にて官能評価(6ヶ月)	・JIRCAS が試験栽培(1 期作・2 期作) ・高嶺酒造所が試験醸造 ・2017 年産を沖縄国税事務所にて官能評価(1 年)	・JIRCAS が試験栽培(1 期作・2 期作) ・高嶺酒造所が試験醸造
IR64 （IRRI 育成）	1期作 ： 525kg （2014 年、JIRCAS） 2 期作 ： 240kg （2018 年、JIRCAS）	・JIRCAS が試験栽培し、高嶺酒造所に 200kg 提供 ・高嶺酒造所が試験醸造	・JIRCAS が試験栽培(2 期作) ・2017 年産を沖縄国税事務所にて官能評価(6ヶ月)	・2017 年産を沖縄国税事務所にて官能評価(1 年)	
BT7 （ベトナムの香り米）	2 期作 ： 270kg （2018 年、JIRCAS）		・JIRCAS が試験栽培(2 期作) ・高嶺酒造所が試験醸造	・2018 年産を沖縄国税事務所にて官能評価(6ヶ月)	

○今後、JIRCAS-高嶺酒造所の共同研究で泡盛醸造試験を計画している品種候補

国際稲研究所(IRRI、フィリピン)育成系統、バングラデシュ稲研究所(BRRI)育成系統、ベトナム品種、インドネシア品種、バスマチ系香り米品種、マレーシア育成品種

資料３

水田活用の直接支払交付金

【平成31年度予算概算決定額　321,500（305,904）百万円】

＜対策のポイント＞

米政策改革の定着に向け、食料自給率・自給力の向上に資する**飼料用米、麦、大豆等の戦略作物の単価や助成体系を維持し、作付面積の増加にも対応して支援**するとともに、**産地交付金により、主食用米からの更なる転換の促進のための深堀支援を追加するなど、水田フル活用を推進**します。

＜政策目標＞

○飼料用米、米粉用米の生産を拡大（飼料用米110万トン、米粉用米10万トン［平成37年度まで］）　○飼料自給率の向上（40%［平成37年度まで］）
○担い手の飼料用米の生産コストを10年間で５割程度削減［平成37年度まで］　○麦・大豆等の作付面積を拡大（麦28.1万ha、大豆15万ha［平成37年度まで］）

※（　）内は平成30年度補正後予算額

＜事業の内容＞

１．戦略作物助成

○　水田を活用して、**麦、大豆、飼料作物、WCS用稲、加工用米、飼料用米、米粉用米を生産する農業者を支援**します。

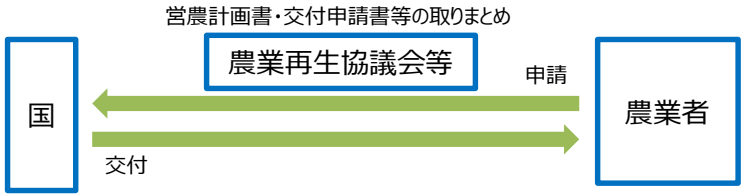
２．産地交付金

○　地域の作物振興の設計図となる「水田フル活用ビジョン」に基づき、高付加価値化や低コスト化を図りながら、地域の特色のある魅力的な産品の産地を創造するため、**地域の裁量で活用可能な産地交付金**により、二毛作や耕畜連携を含め、**産地づくりに向けた取組を支援**します（一定割合以上は県段階で支援内容を決定）。

交付対象者

販売目的で対象作物を生産する販売農家・集落営農

＜事業の流れ＞



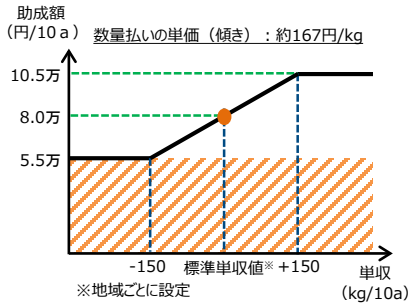
＜事業イメージ＞

戦略作物助成

対象作物	交付単価
麦、大豆、飼料作物※	3.5万円/10a
ＷＣＳ用稲	8.0万円/10a
加工用米	2.0万円/10a
飼料用米、米粉用米	収量に応じ、5.5万円～10.5万円/10a

※飼料用とうもろこしを含む

＜飼料用米・米粉用米の収量と交付単価の関係＞



産地交付金

○「水田フル活用ビジョン」に基づき、地域の裁量で産地づくりに向けた取組を支援します。
○　また、取組に応じた配分（下表参照）を都道府県に対して行います。

対象作物等	取組内容	配分単価
飼料用米、米粉用米	多収品種の取組	1.2万円/10a
そば、なたね	作付けの取組（※基幹作のみ）	2.0万円/10a
新市場開拓用米	作付けの取組（※基幹作のみ）	2.0万円/10a
畑地化	交付対象水田からの除外	10.5万円/10a

上記のほか、以下の取組に応じた配分を行います。

① **転換作物拡大加算（1.0万円/10a）**
転換作物が拡大し、主食用米の面積が平成29年度以降の最小面積より更に減少した場合に、その面積に応じて配分。

② **平成31年度緊急転換加算（５千円/10a）［新規］**
平成31年度に限り、転換作物が拡大し、主食用米の面積が平成30年度より減少した場合に、その面積に応じて配分。

③ **高収益作物等拡大加算（2.0万円/10a）［新規］**
主食用米の面積が平成30年度より減少し、高収益作物等※の面積が拡大した場合に、その面積に応じて配分。　※高収益作物等：高収益作物（園芸作物等）、新市場開拓用米、**加工用米**、飼料用とうもろこし

［お問い合わせ先］政策統括官付穀物課（03-3597-0191）

31年産における需要に応じた生産の推進策

【 30年度 】

① 転換作物拡大加算（1.0万円/10a）

・ 都道府県ごとにみて、転換作物が拡大し、主食用米の面積が29年度以降の最小面積より更に減少した場合に、その面積に応じて産地交付金を追加配分。

【 31年度 】

① 転換作物拡大加算（1.0万円/10a）

・ 左記と同様の内容で継続支援。

〔 ②と合わせると、1.5万円/10a。 〕

② 平成31年度緊急転換加算（５千円/10a） （H31限り）

・ 都道府県ごとにみて、転換作物が拡大し、主食用米の面積が30年度より減少した場合に、その面積に応じて産地交付金を追加配分。

③ 高収益作物等拡大加算（2.0万円/10a） （新規）

・ 地域農業再生協議会ごとにみて、主食用米の面積が30年度より減少し、高収益作物等※の面積が拡大した場合に、その面積に応じて産地交付金を追加配分。ただし、30年産で高収益作物等を減少させた協議会は、31年産で当該減少面積の１/２以上を拡大させることが要件。

※高収益作物等：高収益作物（園芸作物等）、新市場開拓用米、加工用米、飼料用とうもろこし

④ 産地交付金の県枠（１割以上）の設定・拡大 （新規）

・ 当初配分のうち１割以上は、県段階で支援内容を決定し、重点品目の単価を上乗せ。

⑤ 産地交付金の留保解除時の傾斜配分 （新規）

・ 留保解除時に、各都道府県における転換作物の増減に応じて傾斜配分。

資料４

泡盛原料用米生産のイメージ（10a当たり収入額）（試算）

○主食用米（1期作）	○泡盛原料用米

農家収入額
84，000円

＜

農家収入額
84，000円＋α

水田活用の直接支払交付金（戦略作物助成、産地交付金）により、生産農家の収入を確保する。

※多収が実現すれば、さらに収入が増加

泡盛原料用米販売収入
26，000 円程度

※　精米価格100円/kg（仮置き）、精米歩留まり0.9、精米工賃15円/kgを前提に算定。
※　単収は、主食用米の350kg/10a（玄米）として設定。

販売収入84，000 円

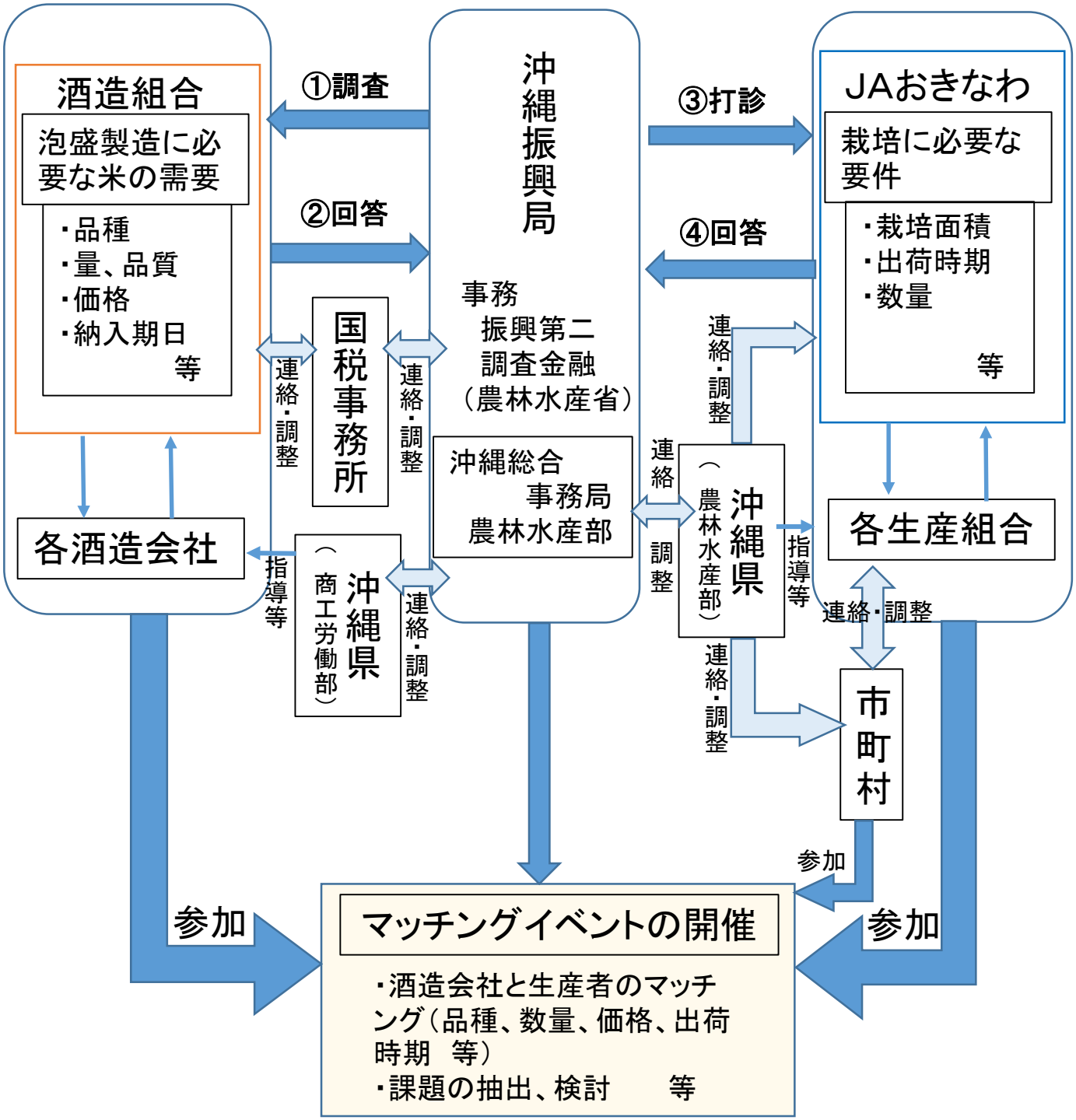
（@240円×350kg）

※主食用米単価：平成30年産一期米1等農家手取額（JAおきなわ聞き取り）

※単収（玄米）：目標単収を350kg（玄米）として設定

産地交付金
45，000 円を想定

戦略作物助成
20，000 円

資料５

酒造会社と長粒種米生産者のマッチング